

# 食育だより

平成28年 1月号  
栃木市教育委員会  
学校教育課

栃木市のホームページに食育だよりを載せています。チェックしてみてください。  
http://www.city.tochigi.lg.jp/

## 学校給食における食物アレルギー対応指針

### 6つの大原則！！

### ★学校給食における食物アレルギー対応指針★

平成27年3月文部科学省より、「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示されました。この指針では学校給食における食物アレルギー対応の基本的な考え方を「すべての児童生徒が給食時間を安全に、かつ、楽しんで過ごせるようにすること」と示しています。本号では、こちらの指針に基づいた今後の栃木市での対応をご紹介します。

安全が最優先です ☆☆

各調理場で安全性が確保できる範囲で対応します。

- 食物アレルギーを有する児童生徒にも給食を提供する。そのためにも安全性を最優先とする。
- 食物アレルギー対応委員会等により組織的に行う。
- 「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき、医師の診断による「学校生活管理指導表」の提出を必須とする。
- 安全性確保のため、原因食物の完全除去対応(提供するかしないか)を原則とする。
- 学校及び調理場の施設設備、人員等を鑑み無理な(過度に複雑な)対応は行わない。
- 教育委員会等は食物アレルギー対応について一定の方針を示すとともに各学校の取組を支援する。

## 今までの学校給食対応と何が変わるの？

### ●二者択一で多段階対応はしない●

学校給食における食物アレルギー対応の原則的な考え方

「最優先は“安全性”」

学校給食で最優先されるべきは“安全性”である。従来の、栄養価の充足やおいしさ、彩り、そして保護者や児童生徒の希望は、安全性が十分に確保される方法で検討する。

従来の多段階対応では、1)完全除去、2)少量可、3)加工食品可、4)牛乳を利用した料理可、5)飲用牛乳のみ停止などさまざまなレベルがあった。これに対応すると、業務は複雑、煩雑となり負担が増えるばかりか事故の温床になる。このため、二者択一、つまり完全除去か、他の児童生徒と同じようにすべての牛乳・乳製品を提供する、どちらかで対応する。多段階対応はしない。  
(学校給食における食物アレルギー対応指針より)

栃木市でも、多段階対応はせず、二者択一とさせていただきます

例えば乳アレルギーの場合…「飲用牛乳だけ飲めません。シチューは食べられます。パンは食べられます。」は多段階対応になります。

牛乳アレルギーの児童生徒は今まで学校給食でパンが食べられていたとしても、体調によって症状が出てしまう可能性があるため、学校給食ではアレルギーがなくなるまで、シチュー等の料理や脱脂粉乳が入っているパンも全部除去対象になります。

完全除去	学校給食では…	お家では…
乳アレルギーの場合	シチューNG	医師の指示のもと最低限の除去
	パンNG	シチューOK
		パンOK

### ●お弁当対応について●

下記の(ア)(イ)に該当する場合は、安全な給食提供は困難であり、弁当対応を考慮します。

(ア)極微量で反応が誘発される可能性がある等の場合

- a)調味料・だし・添加物の除去が必要
- b)加工食品の原材料の欄外表記(注意喚起表示)の表示がある場合についても除去指示がある
- c)多品目の食物除去が必要
- d)食器や調理器具の共用ができない
- e)油の共用ができない
- f)その他、上記に類似した学校給食で対応が困難と考えられる状況

(イ)施設の整備状況や人員等の体制が整っていない場合

※a)～f)に該当する場合、主治医にそこまでの対応が必要であるか改めて確認することが望まれます

(学校給食における食物アレルギー対応指針より)

栃木市でも、お弁当対応の考慮対象とさせていただきます

極微量で反応が誘発される可能性があるか(あり・なし)

「あり」に○が付いたらお弁当対応の対象になります。

主治医が「なし」に○をしているにもかかわらず、同一製造ラインや工場で作られた食材について除去の希望がある場合は、お弁当対応の対象になる

学校生活上の留意点	
A. 給食	1. 管理不要 2. 保膳者と相談し決定
B. 食物・食材を扱う授業・活動	1. 配慮不要 2. 保膳者と相談し決定
C. 運動(体育・部活動等)	1. 管理不要 2. 保膳者と相談し決定
D. 宿泊を伴う校外活動	1. 配慮不要 2. 食事やイベントの際に配慮が必要
E. その他の配慮・管理事項(自由記欄)	

極微量で反応が誘発される可能性があるか(あり・なし)

これまで一定レベル以上の給食を食べていた児童生徒が、完全除去対応となるため、対応の後退と感じるかもしれません。

→個人で考えれば一部児童生徒で二者択一が後退に映りますが、学校給食における食物アレルギー対応全体の安全性の向上を目的としていますのでご了承ください。